

新住協総会参加報告

ニッターボー東岩(株)

河合 伸哉

北海道以外の地で開催される新住協の総会に参加するのは今回が初めてでした。

本州の会員さんの熱気を感じることができたのも今回の良い経験になりました。

都合で、21日の早朝に札幌を立ち、総会には間に合わず、鎌田先生の基調講演の途中から参加させていただきました。松島に着いて電車を下りた瞬間に暑さと湿気を感じ、確かに本州の空気だと思いました。

会場に入ると 200mm も含めた高断熱壁の施工例の模型があって、グラスウールメーカーの性能なのか最初に目に付きました。もっとも研修内容で一番関心があったのは、200mm 断熱についてでした。840mm ピッチの横下地で 24mm 厚の通気胴ぶちの仕様を再確認し、胴部の強さに構造的な安心感を得られました。



「木の香り家」さまの 100mm 付加断熱の報告についても、鎌田先生より質問・解説があり、新住協の会員様の意識も 200mm 断熱への理解が深まって、より現実的なものになってきて、実績がもっと増えてくることを期待したいと思います。Q1.0 住宅のスタート時は、第一に換気熱ロスの低減でしたが、恒久的な性能が可能な厚い断熱により目を向けていただけよう断熱材メーカーとして力を入れていきたいです。

もう一つ、印象に残ったことは、基調講演の中でパッシブハウスについてのリブラン記事についての説明があったことです。I 地域での壁 340mm の仕様は、在来工法のなかでどう構成していくか考えどころかもしれませんが、210mm 断熱が普通に感じられました。断熱先進技術者においては 210mm も違和感が無いかもかもしれませんが、まだまだ実績の少ない状況であることから、パッシブハウスと Q1.0 住宅のほぼ同じ価値観である現状を考えると、更なる高断熱への取り組みが進むよう、しっかり取組んで行きたいと思いました。

以上